

# 旭川医大 病院ニュース

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>



編集 旭川医科大学病院  
広報誌編集委員会委員長  
廣川博之



## 平成最後の新年にむけて 念頭のあいさつ

病院長、副学長 古川博之

新年、明けましておめでとうございます。平成最後の年、31年を迎えたわけですが、皆さんの新年はいかがでしたでしょうか？きっと、職員皆様それぞれの思いを新たにされたことと思います。

7月より病院長に就任して半年が経ちました。この間の病院での出来事についてお知らせします。まずは、3人の教授が新たに着任されました。消化管外科の角泰雄教授、眼科の柳靖雄教授、放射線科の沖崎貴琢教授です。角教授は、大腸の腹腔鏡手術とダヴィンチ手術のエキスパートで、12月には、吉田学長の肝いりで全国を先駆けて購入した8Kのモニターを用いた手術を行っておりメディアにも取り上げられました。柳教授は、シンガポールよりわざわざ旭川に来ていただきました。網膜・黄斑疾患のエキスパートであり創薬研究も手がけておられます。シンガポールでも多額の研究費を取得されており、文部科学省が推薦するクロス・アポイントメント制度を初めて利用しての就任となっております。眼科でも消化器外科と同じく8K+3Dの実用開発を手がけています。放射線科の沖崎教授は、旭川医科大学でコンピューター・アルゴリズムに関する特許や創薬の特許も取得しており、特許の数は本学の中では最も多く、これからも本学の臨床研究の先鋒となると同時に、今後、中央部門の要である放射線部門の充実を図ってくれるものと期待しております。

病院の敷地内では、緑が丘テラスが完成し、一階には、12月1日から2つの薬局とカフェが営業を開始しております。2階には、100人を収容できるデザイン性にすぐれた会議室ができ、これまでの会議室不足が解消されることを期待しているところです。また、駐車場も200台分が増加して、総計594台が駐車できるようになり、これまで病院待ちの渋滞が大きな問題でしたが、入口と出口を別々として、入口は2カ所としたことで、これまでであったような駐車待ちによる渋滞は緩和されてきました。これによって、時間どおりの受診が可能となり、完全予約制も夢ではなくなりました。さらに多くの患者さんが受診されることを期待しております。

今年一番の危惧は、今年の秋に予定されている消費税増税です。というのは、2014年4月の消費税増税時に診療報酬での補填が、特に大学病院のような特定機能病院では61%しかなされてなかったということが昨年になって判明し、今年の消費税増税には、同じ誤りを繰

り返さないよう、厚労省に強く要請してきたところで、おおよそ100%に近い補填率を達成できたのですが、病院毎の格差までは解消できないという問題が残ったまま税制大綱が決定されております。

次に問題となるのは「働き方改革」の問題です。病院長に就任したときの挨拶で、旭川医科大学の最重要課題として、「働きがいのある職場の構築」を挙げさせていただきました。昨年の6月に働き方改革法案が国会を通過し、医療の現場におきましても2024年4月までに法案に沿った働き方改革を行う必要があります。厚生労働省側では、一般の医療機関で働く医師の残業については上限を年960時間とする方向で調整しているといえます。これに対し、地域の中核的な医療機関の医師や、診療経験を積む必要がある研修医は、残業時間の上限を大幅に緩和する代わりに、インターバルの取得を義務づける「二段構え」の仕組みを検討しているということです。医師不足の北海道では急速な人材の補給は望めず、これらの規則を適応されると、たとえ5年という猶予期間はあっても、時間制限やインターバル制度の施行は難しいものと考えられ、地域医療・救急医療の崩壊を加速させる可能性があります。我々としては、規制の緩和に努力する一方で、やれるだけのことはやっていかなければなりません。今年は、まず各人の勤務時間を把握するため勤怠表をつけてもらうとともに、打刻してもらう予定で機種選定を行っているところです。

さて、今年の計画ですが、現在、6つのタスクフォース(以下TF)が稼働しており、今後の成果が期待されます。布陣としては、TF-1:地域連携・退院支援(担当 古川博之)、TF-2:外来運営(担当 竹川政範)、TF-3:国際化(担当 東信良)、TF-4:医療機器の更新(担当 國澤卓之)、TF-5:診断情報の伝達(担当 原測保明)、TF-6:ドクターズクラーク(担当 大田哲生)という内容で、いずれもこれからの病院の運営にとっては欠くことのできない課題の解決を目指しています。私自身もTF-1業務の一環として、経営的視点から各科のヒアリングを行っていく予定ですし、各分野の職員の不足を早めに察知し、雇用を積極的に行っていくことで、旭川医科大学病院のさらなる発展を支えていく所存です。

最後に、昨年までの職員の皆様の病院の発展に対するご尽力に感謝すると同時に、今年が皆様にとって、希望がかなうすばらしい年であることを祈っております。



就任にあたって

## 外科学講座消化管外科学分野教授就任にあたって

外科学講座（消化管外科学分野）教授 角 泰雄

2018年8月1日付で神戸大学より着任いたしました。9月より、消化器病態外科学分野から消化管外科学分野として新たに再編され消化管外科学分野教授を拝命いたしました。

私は、平成6年に神戸大学医学部を卒業し、旧第一外科に入局後、消化器外科を専門として診療に従事してきました。平成20年に神戸大学に帰学してからは、それまで専門として研鑽を積んできた鏡視下手術をさらに発展させるだけでなく、その普及を目指し臨床・研究・教育に携わってきました。

我々の消化管外科学分野は、消化管疾患（主に食道癌・胃癌・大腸癌などの消化管悪性疾患）を担当することとなります。2018年4月より診療報酬の改定に伴い食道癌・胃癌・直腸癌に対してda Vinci Surgical Systemを用いたロボット支援の保険収載も決まり、消化管疾患に対する外科治療は、急激な進化を遂げつつあります。現在、消化管に対する手術は、腹腔鏡下

手術が中心となってきています。腹腔鏡下手術は低侵襲であるだけでなく、最大のメリットである拡大視効果によって非常に精緻な手術を可能としています。従来の開腹手術では見えなかったものが見えるようになり、新たな臨床解剖の発見にもつながっています。ここ旭川におきましても、これまでの経験を生かし日本トップレベルの内視鏡外科を目指したいと考えています。

旭川医大は道東・道北における地域医療の中核を担う基幹病院でもあります。医師減少・偏在という問題はかなり深刻な問題として地域医療を圧迫していきます。旭川医大が中心となり、同地域の地域医療の充実を図るべく人材の育成にも力を注いでいきたいと思えます。当教室は、若い医局員が中心となっており大変活気に満ちた医局です。ここ北の大地、北海道から世界に通用する人材を育成し、さらに地域医療にも貢献できるように医局員一同頑張っていきたいと考えています。

就任にあたって

## 旭川医科大学眼科学講座教授就任にあたってのご挨拶

眼科学講座教授 柳 靖雄

旭川医科大学眼科学講座の主任教授として2018年10月1日に就任しました柳靖雄と申します。眼科の中でも網膜・黄斑疾患を専門にしております。

私は、旭川医科大学に参ります前に、東大病院眼科で長きにわたって主に網膜疾患、黄斑疾患の診療にあたりおりました。網膜・黄斑疾患は、視力予後が初期治療によって大きく左右されてしまいます。私が任されておりました網膜・黄斑グループは、そのような難治症例が多いのに加え、慢性の経過をたどる症例が多いため、多数の医師を擁するにもかかわらず、最も外来患者数が多い多忙な診療チームでした。私の外来でも1日に100名以上の外来患者を診察することもございましたし、グループ診療の外来でも同様に多数の患者を診療してまいりました。そのように多忙な中でも、最新の知見に基づき最善の治療を行えるよう若手医師の教育体制、ならびに診療体制を整えて、志の高いチーム医療が実践できたのではないかと自負しております。

その後にシンガポールに参りましてからも、臨床においては日本で実践してきた知識や技術を生かし、専門分野の患者の診療に当たると同時に若手医師の育成に努めてまいりました。シンガポールでは研修システムが日本より厳格であり、若手のレジデントは眼科医になるために高いレベルの臨床技術の習得が必須であり、そして臨床だけでなく質の高い研究成果発表も求

められます。医療システムが異なる中、シンガポールの医師免許を持つ日本からの眼科医師は私以外おりませんでした。診療ばかりでなく若手教育にも大いに貢献できたのではないかと感じております。さらに研究においては臨床研究のみならず、黄斑疾患の新規創薬にも関わっておりました。旭川医科大学に参りましてからも、クロスアポイントメント兼任をお許しいただいてシンガポールにも在籍し、日本とシンガポールの両方から眼科創薬研究を進めております。

旭川医科大学眼科におきましてはこれまで既に、診療においては十分な体制が整っており、地域医療の砦となる病院となっております。これからは、これまで以上に旭川のみならず、地域医療の向上に努め、さらに質の高い、先進的な医療を提供できますように努めてまいります。私の専門である網膜・黄斑疾患は、専門性が高く、診療に際しましては高度な専門知識や経験が必要になりますし、最善の治療のためには多数の症例を経験する必要がありますのに加え、特殊な診療資格なども必要な領域です。このため網膜・黄斑疾患の高い診療技術を持った専門医は未だに数が少なく、さらなる育成を行うことが旭川医科大学眼科の重要な任務の一つだと思っております。もちろんそれ以外の専門分野でもさらなる充実を図ってまいりますので、皆様の今後のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 外国人患者の対応力向上を目指して

タスクフォースW-G国際化メンバー 看護職キャリア支援 教育担当 看護師長 植山さゆり

2020年の東京オリンピックの開催を控え、外国人観光客の急増により、外国人患者へ接する機会が増加することが予測され、急速する国際化と同時に各医療機関は基盤整備が重要となります。

当院においても近年外国人患者の受診、入院が増加しています。平成28年度4月～9月の調査では、外国人患者受け入れ件数は約50件でした。外国人患者の言語は英語、中国語、ドイツ語、ベトナム語、モンゴル語、ロシア語、スペイン語、韓国語、ヘブライ語、等でした。その際、看護師と外国人患者との関わりで、何とか意思疎通できたが困難を感じた、できれば通訳が必要、通訳が必須な状況は全体の約70%を占め、言葉の壁を感じていました。

今年度外国人患者が入院した部署では、通訳不在時には多言語コミュニケーションサービスタブレットや翻訳アプリ使用、また部署独自で入院時、手術前オリエンテーションの翻訳文書や指差しイラストを作成、看護師と外国人患者が互いにジェスチャーでコミュニケーションを図る、など各部署が工夫しながら対応していました。同時に、外国人患者の訴えがわからない、

看護師の説明がうまく伝わらないこともあり、対応の難しさも抱えていました。

そのため、看護部平成30年度活動目標【国際化】国際化に対応できる看護体制を整備する、【教育】地域貢献・国際化を見据えた看護職を育成する、とし、外国人患者が安心して医療・看護が受けられるよう、看護を組織的に提供できる体制を整えています。今回、円滑なコミュニケーションに向け、入院時情報収集用紙、指差しイラストなどの英語版文書集、看護英語集を作成し、病院情報システムに掲載し、活用していくことにしました。今後は、言語の理解に加え、外国人患者の文化、生活背景、生活習慣を尊重したきめ細かな看護が提供できる看護師の育成を目指していききたいと思います。



病名	症状	英語版用紙/英語/漢語	英語版用紙/漢語/英語	1-1/2
発熱	熱がある	Do you have a fever?	What is the problem?	2
寒気	寒気がする	Do you have a chill?	Do you have a headache?	2
嘔吐	吐く	Do you have a vomit?	Do you have a fever?	2
下痢	下痢	Do you have a diarrhea?	Where is the pain?	2
便秘	便秘	Do you have a constipation?	Is the pain spreading?	2
めまい	めまい	Do you have a vertigo?	Do you have other unusual symptoms?	2
頭痛	頭痛	Do you have a headache?	Do you feel this constant?	2
発熱	熱がある	Do you have a fever?	What was your last meal?	2
嘔吐	吐く	Do you have a vomit?	What did you eat?	2
下痢	下痢	Do you have a diarrhea?	Do you have any allergies?	2
便秘	便秘	Do you have a constipation?	Do you have any chronic diseases?	2
めまい	めまい	Do you have a vertigo?	Are you on any medication?	2
頭痛	頭痛	Do you have a headache?	When you ever suffered from any serious disease?	2
疲労	疲れる	Do you feel tired?	Yes/No (write a consultation when the test results become available)	2
貧血	貧血	Do you have anemia?	At the moment, the consultation consultation for 10:00 are in progress.	2
黄疸	黄疸	Do you have jaundice?	The length of each consultation depends on the amount of work.	2

# 「特別室Bに壁掛け時計を設置しました」

看護部患者サービス向上委員会 佐藤こすえ

看護部患者サービス向上委員会は、平成25年4月1日に旭川医科大学病院の患者サービス向上を図る目的で発足しました。1年間に必ず1つは患者サービスへ繋がることを実施する、をモットーに委員会活動をしています。

今年度は、特別室Bへ壁掛け時計を設置することに取り組みました。この取り組みのきっかけは、平成28年10月に実施した各ナースステーションへの患者サービスについての意見調査の結果からです。様々な意見を頂きましたが、その中に「特別室Bに時計を設置してほしい。料金を4000円払っているのに時計がないと患者さんからご意見を頂いた」というものがありました。特別室Aには時計が設置してあります。患者さんにとって、病室に時計があると過ごしやすい、特別室ならば是非、そうして欲しいという思いの表れだと感じました。

委員会で話し合った結果、①特別室Bは64室あり、病棟間の統一性を維持すること②時計は見やすい大きさであり、かつ睡眠を妨げないタイプとすること③時刻が狂いにくいものにする④多少の振動では落下しないように設置方法を工夫すること、の4点が考えられました。そして、11月13日14日の2日間で全64室に壁掛け時計が設置されました。

患者さんからは「このお部屋は時計がついているのね」と特別感を感じると言われました。また「目を開けたら時計が見えるので、すぐに時間がわかっていいね」「見やすい時計だね」との言葉を頂きました。更に入院患者さんのご家族の方には「家から時計を持って来なくても大丈夫だね」「付き添っていても携帯や腕時計で時間を確認するって意外と面倒なのよ。これはいいね」と言われました。

入院患者さんにとって、具合が悪くて起き上がれないときでも、すぐに時刻を確認できることや自宅の生活環境に近い壁掛け時計があることは患者サービスに繋がったと思います。



## 病院にて消防訓練を実施しました

旭川医科大学では、平成30年9月4日（火）午後3時から旭川市消防本部の方の協力の下に消防訓練を実施しました。

この訓練は、夜間に病院5階西病棟物品庫から火災が発生したと想定し、医師、看護師及び事務職員が参加して実施されました。火災報知器を鳴らし、初期消火訓練、通報訓練、避難誘導訓練などを行い、特に、避難訓練では、患者役となった職員を、実践しながら避難をさせる訓練が行われました。

訓練終了後は、旭川市消防本部予防指導課から講評を受け、消火器と構内の消火栓の使用訓練も実施しました。

本学では、今後も火災やその他緊急時に備え、職員や学生が迅速かつ的確な行動がとれるように、訓練を行っていきます。



避難誘導の様子



自衛消防本部にて状況の報告を受ける



訓練参加者による消火器訓練



熱心に屋内消火栓の説明を受ける

## 病院アメニティ施設「緑が丘テラス」が完成

本年11月、病院食堂隣に「緑が丘テラス」が完成し、12月1日にオープンしました。

この建物は、昨年より取り組んでいました、病院アメニティ施設整備運営事業によるもので、患者をはじめとした病院利用者へのサービス向上及び地域住民の利便性の向上を目的とした施設です。

建設には、記録的な豪雨、北海道胆振東部地震による北海道全域ブラックアウトなどの災害と闘いながら平成30年11月に無事完成しました。

建物規模は、鉄骨造2階建て、延べ1,184㎡であり、木材を多く使用し、ぬくもりのあるデザインにしました。

1階には、2件の調剤薬局が営業を開始し、今まで懸案であった薬の待ち時間が大きく緩和されます。また、旭川市初出店となるカフェアトリエモリヒコが来店し、来院者がくつろげる場として期待されます。

2階は、108席収容の病院会議室や病院事務室（経営企画課）として使用しております。

また、来院者第2駐車場も合わせて整備し、従来の駐車スペースより200台増設し、373台を駐車することができ、懸案であった駐車場渋滞の緩和も期待できます。

11月29日には、オープン前に内覧会を開催し大勢の見学者を見ることができました。



外観



アイン薬局



ナカジマ薬局



アトリエモリヒコ



病院会議室



来院者第2駐車場

# 薬剤部 新薬紹介 (75) ゾフルーザ® (バロキサビル マルボキシル)

本剤は核内でのウイルス増殖抑制という新機序の抗インフルエンザウイルス薬である。A型、B型の治療に用いられるが、予防投与の適応はない。当院では20mg錠が通常採用されている。

臨床試験において、プラセボ群に対し罹病期間の短縮と早期のウイルス減少効果が確認された。各種非臨床薬効試験においても、従来のノイラミニダーゼ阻害剤に対する耐性ウイルスへの抗ウイルス効果も確認されている。

用法用量は、通常、成人及び12歳以上の小児には20mg 2錠を単回経口投与する。単回投与のため、アドヒアランス向上が期待される。従来薬同様、症状発現後48時間以内の使用が推奨される。ただし、追加投与は推奨されていない。食後投与でAUCは低下するが、臨床試験で罹病期間の差異が認められなかったため、食事に関する規定はない。

本剤は主に胆汁を介した糞中排泄であり、腎排泄の寄与が小さく、腎障害患者、透析患者は常用量でよいとされている。

重度の肝障害患者に対しては投与経験がなく慎重投

与である。中等度 (Child-Pugh分類B) における血漿中濃度に対する薬物動態への影響は少なく、軽度及び中等度での用量調節に関する規定はない。

主な副作用は下痢、ALT増加等である。インフルエンザ罹患時の異常行動については、薬剤の服用の有無や種類に関わらず報告されているが、本剤においても市販直後調査で報告されており、他剤同様に注意喚起されている。また、動物実験においてビタミンK不足によるPT及びAPTT延長の報告がある。

本剤の治療における位置づけは、国内学会では現時点で明確になっていない。未だ留意点も多く、65歳以上と12歳未満への有用性情報が不足していること、既にA型治療例にウイルスのアミノ酸変異が認められ、耐性が懸念されること等が挙げられる。また、本剤の臨床症状の改善はオセルタミビル (先発品: タミフル®) と同等だが、先発品の倍程度のコストがかかる上に後発品も存在することから、費用についても使用の際に考慮する必要がある。

(薬品情報室 寺川央一)

## 臨床検査・輸血部発 11月11日は臨床検査の日

いつも臨床検査・輸血部の活動にご協力いただきありがとうございます。

「臨床検査の日」とは、臨床検査振興協議会が、臨床検査が病気の早期発見・治療につながる有用なものであることを国民の皆さんに知っていただくために制定したものです。臨床検査で不可欠な+ (プラス)、- (マイナス) にちなんで十一月十一日が臨床検査の日に設定されました。

当院では臨床検査の日に合わせて、11月5日～11月

16日に、患者さんに向けてポスターを展示しました。ポスターの内容は、臨床検査と各検査室について、また検査室以外の場所での院内の活動について記載しました。各検査室でどんな検査が行われているかについては、病院の案内図を使った検査室マップを作成して紹介しました (下図: 検査室マップ)。検査室以外の院内活動では、中央採血室、栄養サポートチーム、糖尿病教室、排尿機能検査、感染制御部、術中モニタリング、治験の活動について紹介しました。

<検査室マップ>



(臨床検査・輸血部 大塚 浩平)

## 永年勤続者表彰

勤労感謝の日にあわせ、11月20日（火）午後2時00分より、平成30年度本学永年勤続者表彰式が第一会議室で行われました。

表彰式は役員及び所属長の列席のもと、学長から被表彰者に対し表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

次いで、学長から永年にわたり本学の発展・充実に尽力されたことに対する感謝とねぎらいの挨拶があり、これに対して、被表彰者を代表して、薬理学講座 結城 幸一 准教授より謝辞が述べられました。なお、被表彰者は次の方々です。（敬称略五十音順）



次いで、学長から永年にわたり本学の発展・充実に尽力されたことに対する感謝とねぎらいの挨拶があり、これに対して、被表彰者を代表して、薬理学講座 結城 幸一 准教授より謝辞が述べられました。なお、被表彰者は次の方々です。（敬称略五十音順）



- 伊藤 幸子 (看護学講座 教授)
- 糸林 真優子 (図書館情報課情報管理係 係長)
- 上北 真理 (9階東ナース・ステーション 副看護師長)
- 大淵 友紀 (NICUナース・ステーション 副看護師長)
- 垣見 十 (救命救急ナース・ステーション 副看護師長)
- 金 絵理 (7階東ナース・ステーション 副看護師長)
- 鈴木 真紀 (6階東ナース・ステーション 看護師)
- 外山 麻美 (4階西ナース・ステーション 看護師)
- 眞鍋 万里子 (救命救急ナース・ステーション 副看護師長)
- 三浦 美佳 (5階西ナース・ステーション 看護師長)
- 山近 真実 (手術部ナース・ステーション 看護師長)
- 結城 幸一 (薬理学講座 准教授)



### 平成30年度 患者数等統計

(経営企画課)

区分	外来患者延数	一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	初診患者数	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数(一般病床)
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
7月	34,094	1,623.5	95.9	1,363	87.5	16,512	532.6	88.5	87.3	12.1
8月	34,979	1,520.8	95.7	1,391	85.0	16,834	543.0	90.2	85.9	11.4
9月	29,678	1,648.8	95.8	1,061	84.2	15,507	516.9	85.9	87.5	12.8
計	98,751	1,592.8	95.9	3,815	85.7	48,853	531.0	88.2	86.9	12.1
累計	195,795	1,579.0	95.9	7,654	87.4	96,473	527.2	87.6	86.6	12.1
同規模医科大学平均	147,454	1,190.0	93.4	8,053	83.0	96,781	528.9	86.7	84.9	13.0

### 編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年には平成最後の年となり、新元号に変わります。そのおかげで日本に在住しているすべての人に10連休が与えられます。医療機関にとっては頭の痛い問題となるかもしれませんが、今から心待ちにしている方もいるのではないのでしょうか。イギリスのコンサルティング会社「ヘンリー&パートナーズ」の発表によると、日本のパスポートは世界190の国と地域にビザ申請なしで渡航できる世界最強のパスポートとのこと。近年、当院は国際化に向け準備が進んでいますが、パスポートという身近なものが最も国際化が進んでいたなんて大きな驚きです。もし、10連休をとれるのであればパスポートとトランク1つで行ったことのない外国へなんていうのも良いかもしれません。ただし、隣国ロシア、ブラジルとアフリカの多くの国は含まれませんのでご注意ください。皆様にとって良い一年になることお祈り申し上げます。(薬剤部 木村周古)

### 時事ニュース

- 12月1日 (土) JAZZ研究会クリスマスコンサート
- 12月2日 (日) 室内合奏団クリスマスコンサート
- 12月5・6日 (水・木) 第17回 各部門における安全への取組報告会
- 12月8日 (土) 合唱部クリスマスコンサート
- 12月9日 (日) 北海道緩和ケア研修会 (旭川医科大学病院主催)
- 12月9日 (日) プラスアンサンブルクリスマスコンサート
- 12月16日 (日) 吉田朋代 ピアノ弾き語りコンサート
- 12月22日 (土) プラスアンサンブル木管五重奏コンサート